

# 京ヶ峰の四季

第46号

2014年春号



満開の桜と本館

ピカピカのランドセルを背負った1年生、真新しいスーツに身を包んだ新社会人、街中では新しい生活をスタートした人たちの新鮮な表情に触れる機会が多くなりました。フレッシュな彼らを目の当たりにするとおのずと初心に引き戻され、自分も頑張ろうという気持ちが湧いてきます。

昨年は当院にとって75周年の節目の年でありました。第三者機関である日本医療機能評価機構による認定の更新も無事に終わり、今年の3月からは急性期治療病棟を精神科救急病棟へ変更し、2病棟体制での急性期治療に取り組んでおります。4月からは新たな仲間も迎え、この複雑かつ難しい医療情勢に立ちむかうべく邁進中であります。

しかしこの4月、我々の携わる精神科医療の上で大きな変換が2つありました。

一つは、2年に一度の診療報酬改定です。医療費抑制政策の中、もともと身体科と精神科医療の格差は大きく、精神科医療の重要性が見直されている今でもその差は縮まるどころか配慮さえ見えません。

もう一つは、精神保健福祉法の改正です。保護者制度の廃止を柱とした改正であります。あまりにも大枠のみでの見切り発車になっており、今後現場での混乱が危惧されるどころです。患者さまに不利益が生じないことを祈るばかりです。

様々な課題や難題が次から次へと押し寄せてきますが、当院では一致団結して「患者さまの幸せのために」変わらぬ医療サービスを提供できるように気を引き締めて努力して参りたいと存じます。

京ヶ峰岡田病院  
副院長 岡田 京子

基本理念

一人ひとりの患者さまの幸せのために  
～ For the Patients ～

## 精神保健福祉法改正について

PSW部

平成26年4月1日より「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)」が改正されました。今回の法律の改正ポイントとしては「精神障害者の医療の提供を確保するための指針の策定」、「保護者制度の廃止」、「医療保護入院の見直し」等が挙げられます。

平成16年9月に「精神保健福祉施策の改革ビジョンの枠組み」が出され、この10年間は「入院医療中心から地域生活中心へ」という考えのもとに、精神科医療や地域生活支援の強化が進められてきました。その流れを受けて、精神科医療の機能分化や外来医療体制の整備、地域医療連携、医療従事者の多職種連携等について指針が打ち出されました。



これまで精神科病院に入院する際、入院者ご本人の入院同意が得られない場合、ご本人に代わって入院治療の同意をする「保護者」が必要でした。「保護者」…後見人、保佐人、配偶者、親権者、3親等内の扶養義務者の順で一人決められる。「保護者」には「治療を受けさせること」、「診断が正しく行われるように医師に協力し、指示に従うこと」、「財産上の利益を保護すること」などの8つの責務が課せられていましたが、その負担が大きいとの議論があり、今回の改正では保護者の責務が無くなり、保護者制度が廃止となりました。

医療保護入院の見直しでは、保護者制度が廃止されたこともあり、「家族等のうちいずれかの者」の同意があれば医療保護入院が可能となりました。「家族等」というのは配偶者、親権者、3親等内の扶養義務者、後見人、保佐人が対象です。優先順位はなく、成年後見制度を利用している方や未成年者に対しては、後見人・保佐人・親権者の意向が尊重されることとなっています。「保護者」としての責務がなくなり、負担が軽減されるという良い点もありますが、入院時の同意や手続き、その後の関わり等を誰にどのように協力を得ていくのかという部分で混乱が生じやすくなる心配もあります。

また、医療保護入院した方に対しては「退院後生活環境相談員(精神保健福祉士等)」の選任が義務付けられます。多職種連携によるチーム医療を推進し、相談支援事業所等の関係機関と連携をしながら退院に向けての取り組みを一緒に行なっていくこととなります。退院への取り組みや退院後の生活のサポートについては、これまでも取り組まれてきたことですが、今回の法改正で、より一層「早期退院を目指し、地域での生活を支援していく」という考え方が明示された形となります。法律が変わっても「ご本人やご家族に寄り添い、一緒に歩んでいく」という病院の姿勢は変わりません。日常生活の中の何気ない疑問や気がかりなことなどがあれば、総合相談窓口や病院スタッフへいつでもご相談ください。



## 第11回 京ヶ峰岡田病院 地域懇談会

地域の各機関や家族会のみなさまに当院の活動を報告するとともに、みなさまからご意見をお聞きする懇談会を開催いたしましたので、ご報告いたします。



開催日時：平成26年3月11日(火) 14:00~16:00  
会場：京ヶ峰岡田病院 本館2F 会議室

出席者(35施設 42名 幸田町はじめ近隣市町村)

- 保健所
- 社会福祉協議会
- 相談支援事業所
- 地域活動支援センター
- 消防署
- 地元区長
- 市町村役場
- 医療機関(他科)
- 障害福祉サービス事業所
- 警察署
- 家族会

### 当院の地域生活支援の状況(統計)報告

- 受診相談の状況  
109件(平成25年)主に電話による相談、半数以上が入院の相談で、午後の時間帯が多い。
- インテーク面接(予診)の状況  
452件(平成25年)疾患別では統合失調症が減少し、感情障害が増加しています。
- 退院後の動向(退院時と3ヵ月後の状況)  
495名(平成24年)7割の方が自宅への退院。そのうち3ヵ月後は6割の方が通院継続、1割が再入院しています。
- 精神科訪問看護指導の状況  
登録者238名(平成25年末)9割が自宅への訪問、4割の方が4週間に1回の訪問頻度。
- 精神科デイナイトケアの状況  
登録者190名(平成25年末)6割の方が退院直後の利用、並行して就労継続系の事業所の利用者が増加しています。



地域懇談会

### 精神保健福祉法改正について報告

2014年4月の法改正(保護者制度の廃止や医療保護入院者に対する退院後生活環境相談員の選任、退院に向けた相談支援事業所等との連携など)を説明しました。

### 各機関・団体の取り組みや要望

昨年に引き続き、家族会からはACTやひきこもり対策といったアウトリーチなどの要望があり、当院だけではなく他の関係する機関からの現状を報告していただきました。また、当院職員の対応についてのお話もあり、あらためて確認をさせていただく機会になりました。

### アンケートより

当院の現状を知ることができたことや、他機関の取り組みや意見などが確認できて良かったとの意見が多くありました。

### 栄養士から 季節のおすすめ

「目には青葉 山ほととぎす 初鯉」——江戸時代の俳人、山口素堂(1642~1716年)の有名な句ですね。「目には青葉」と記憶していましたが、正しくは「目には青葉」のようです。目にはまぶしく輝く新緑が映り、耳にはホトギスの鳴き声が聞こえ、口には新鮮な初鯉。フレッシュで爽やかなこの時期を見事に表しています。“料”を大切に江戸っ子たち、初物を食べると長生きするとの言い伝えがあり、こぞって食べていたようです。その名残でしょうか、現代でもこの時期になると初鯉が店先に並びます。カツオは暖かい海を好み、日本近海を回遊する魚です。初鯉とは黒潮にのって北上するものことで、脂が少なくあっさりとしていて本来の味が楽しめます。また、秋に南下する戻り鯉は脂がのっており、こちらもおいしいと評判だとか。カツオは良質なタンパク源であり、血液をサラサラにしてくれるEPA、脳の働きを活性化させるDHA、コレステロールを下げるタウリンが豊富です。他には、ビタミンB群やD、ミネラルをバランスよく含んでいます。このように栄養価の高いカツオ、お刺身やタタキでおいしく味わいたいですね。



# 行事報告



**「新春コンサート・成人長寿のお祝い」**  
平成26年1月24日(金)

岡崎南ライオンズクラブさまのご協力で、楽団「ホットアンサンブル」に来院いただきました。生バンドの演奏に合わせて患者さまも自慢の歌を披露。後半では成人長寿のお祝いとして、対象の患者さまに院長より記念品を贈呈しました。



**「室内ゲーム大会」**  
平成26年2月26日(水)

午前は輪投げ、テーブルクロス引きなどいろんなゲームをスタンプラリーで、午後はおセロやトランプなどを団体戦で楽しみました。265名の患者さまに参加いただき、楽しい一日を過ごすことができました。



**「愛知県精神障害者フットサル大会」**  
平成26年3月19日(水)

岡崎市中央総合体育館で11チームが参加。当院のチームは第7位。プロフットサルクラブ「名古屋オーシャンズ」さまにご協力いただき、レッスンをいただいた後、交流戦でプロと対決しました。



**「三河地区有志病院スポーツ交流会  
ビーチボールバレー大会」**  
平成26年3月7日(金)

刈谷市内の体育館で4施設から5チームが参加。当院からは2チームが出場し、結果は第2位と第4位。来年は優勝目指して頑張ります！



**「行事食 葵3病棟」**  
平成26年3月25日(火)

病棟ダイニングにて。当日のメニューは、カツカレー、春雨サラダ、杏仁豆腐、コーヒー。なかでも患者さまの希望で用意された昔懐かしい缶コーヒーが好評でした。



## おすすめコーナー

## 【今号のおすすめ】名古屋ボストン美術館

私のおすすめは、米国ボストン美術館唯一の姉妹館である、名古屋ボストン美術館です。金山総合駅を出てすぐの場所にあります。今回は、葛飾北斎の浮世絵展覧会がおこなわれていました。数百年経っても色あせず、静止画なのに、風や波の動きが見えるようで魅入ってしまいました。ボストン美術館では、作品の保存管理が徹底されていて、良好な状態の展示品を見ることができます。8月までは、「ミレー展」が開催されています。2014年は、開館15周年にあたり、今後の企画展にも注目していきたいです。日本で一生に一度見られるかどうかの作品が多数出展される美術館です。名古屋へ行く際は、ぜひ立ち寄ってみてください。

総務部 青山



## 編集後記

“桜”と言えば「ソメイヨシノ(染井吉野)」が有名ですが、日本には600種以上あるそうです。一般的に開花時期が3月から4月で、日本では年度始まりであることから、人生の転機を彩る花にもなっています。皆さんも出会いや別れがありましたか…。それにしても毎年毎年、忘れずに、時期も間違えずに咲くことに感心をします。

広報委員 辻川

